第33回BELCA賞 ベストリフォーム部門選考評

BELCA賞選考委員会 副委員長 深尾 精一

今回のBELCA賞表彰件数10件の中で、ベストリフォーム部門で表彰されたものは、６件であった。昨年まで７～８件の年が続いたが、半数近くにもどったことになる。BELCA賞については、ロングライフ部門とベストリフォーム部門の区別をしにくい応募建築が増える傾向にあり、枠組みのありかたについても検討すべき時期であるのかもしれない。

６つの建築の当初の建設年をみると、戦前に建設されたもののリノベーションが２件あり、そのうちの１件は、18世紀後半の木造建築であって、BELCA賞としても、かなり古い建築のリノベーション事例である。いま一つは1930年代前半の建築をコンバージョンしたもので、ともに宿泊施設にコンバージョンされている。新築でも高級なホテルの建設が目立っているが、このような宿泊施設への改修事例は、今後も増えていくと思われる。

残りの４件は戦後の建築であるが、1960年代のものが３件であり、BELCA賞としては比較的多い時代のものと言えよう。いま一つの表彰物件は、1991年の建築を時代の要請に適したものにリノベーションした事例で、BELCA賞としてはかなり新しい建築の事例となった。これら戦後の建築の４件は、用途の大きな変更がなされていない建築であることも、今回の特徴と言えよう。

「歳吉屋 - BYAKU Narai - 」は、18世紀後半の1793年に竣工した木造の造り酒屋の建築群を、宿泊施設や温浴施設などの複合施設に改修した事例である。重要伝統的建造物群保存地区である奈良井宿に建つ貴重な建築で、各種の蔵なども含めてコンバージョンがなされている。地域の森林資源の活用という観点から、塩尻市の森林公社との連携した事業であることも特徴である。宿泊施設ということで、現行の法規を満たす様々な防災手法が採用され、バラエティーに富んだ八つの客室を生み出している。

「丸福楼」は、1930年から1933年にかけて建設された、任天堂の旧社屋と住居、倉庫を宿泊施設にコンバージョンした建築である。通りに面して用途が異なりながら連続した意匠をもつ、1930年代の京都らしい洋館であった。その歴史的景観を活かすとともに、耐力壁を増強するなど、耐震性の向上を図り、アールデコ調などのオリジナルの内装意匠を活かした改修が行われている。一部に新築部分を入れ込むなど、現代の高級ホテルに相応しい機能を満足させた意欲的な活用事例である。

「国立代々木競技場」は、言うまでもなく、1964年に前回の東京オリンピックのために竣工した、丹下健三らの設計による世界に誇れる建築である。今回のオリンピックに合わせ、安全性と機能性の向上を図る改修が実施されている。当時の技術の粋を凝らした特殊な吊構造建築の耐震改修には様々な工夫がなされており、アリーナについては、天井など、当初の意匠を尊重した工事が行われている。パラリンピックの会場としての、高度なバリアフリー化も行われている。

＜次頁へつづく＞

＜前頁つづき＞

「静岡新聞・静岡放送東京支社」も、国立代々木競技場に続いて、丹下健三により設計され1967年に竣工した、丸いコアを全体の構造体とする建築である。所有者の強い意志のもと、自社のオフィスとして使い続けることが決定され、そのための耐震補強が中心となるリフォームがなされている。外観の形状を損ねることなく、コアの内側から鋼板を用いて補強しており、コア壁の脚部には炭素繊維シートも用いている。構造解析手法を含め、高度な技術を駆使した改修である。

「東郷の杜 東郷記念館」は、1969年に竣工した結婚式場などの複合施設であり、耐震補強を中心に、空間の質を向上させる改修を行っている。敷地条件など、様々な制約がある中で、鉄骨によるアウトフレームによって、前面の池と呼応した新しい風景が創り出されている。最上階のテラスの屋根なども、法規の制約の中で生み出された優れたデザインである。階段やエレベータなどの縦動線の大幅な改修も、会館を運営しやすい建築に蘇らせている。地域の防災拠点となることを目指した改修でもある。

「GOOD CYCLE BUILDING 001 淺沼組名古屋支店」は、1991年に竣工した建物の改修であり、BELCA賞の受賞作品の中でも、築年の浅い建築の改修事例である。環境配慮型リニューアルと銘打って、建設会社の支店ならではの、様々な試みを取り入れたリフォームを行っている。ファサードの改修がもっとも特徴的であり、ガラスカーテンウォールから、吉野杉の丸太をシンボル的に用いた印象的な表情へと変化している。内装から家具まで、循環型社会における建築のあるべき姿を目指したリフォームである。

以上のように、今回のベストリフォーム部門の表彰対象は、世界的に著名な建築から、あまり知られていなかった建築の意欲的な改修事例まで、バラエティーに富んだものとなった。その中で、明確な用途変更を行ったものが戦前の建物の二事例だけであったことも、今回の特徴と言えよう。